

寄せ蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI : Saitama Konchyu Danwakai

北朝霞の蝶(2)

矢島嘉和

6. ゴマダラチョウ

第1化は5月中旬～6月中旬、第2化は7月上旬～8月中旬にみられる。第3化の記録はない。

春型幼虫の個体数は多く、寄生率は高い。1975年から5年間、4本のエノキ(樹高約5M)を選び、25頭ずつ幼虫を探って調べてみた。採集時期は2月、()内の数字はサナギになった個体数、前の数字は羽化個体数を示す。

群年	1	2	3	4
1975	13 (23)	14 (25)	10 (22)	12 (24)
1976	12 (24)	11 (22)	14 (23)	14 (23)
1977	14 (23)	15 (25)	15 (25)	13 (20)
1978	13 (23)	13 (21)	13 (23)	14 (25)
1979	12 (22)	12 (24)	12 (24)	13 (24)

それに対し夏型幼虫は大木よりも樹高2～3M位の若い木に多く、春型と比べると個体数は少ないし、寄生率も低い。産卵行動は2回目撃している。1回目は自宅で(1978年6月12日)、羽をこまかく開閉させ、足は枝につけ、腹端を曲げて葉裏に卵ずつ産み、同じ葉に8卵産んだ(40分程度)。低木なので産卵場所が限定されるためか、集中的に産んだものと思われる。2回目は浜崎団地近くで(1979年8月20日)、食樹の上方で地上約5Mぐらいを4回旋回して、2Mくらいの高さの枝先に降りて中の方にもぐり、腹端を曲げて葉の主脈近くに卵、続けてもう1卵産み、次にもう少し下の

枝に降りて産卵した。卵産むのに約40秒かかっている。今までの観察例では1つの葉に2～8卵産んである(同じ蝶が産んだかどうかは不明)。また1本の枝に集中的に産んでることが多い。…3M位の木の場合。

クヌギの樹液とバタフライ・トラップを用いた観察では、夏型の樹液飛来時刻は朝10時～11時、午後2時～5時で、午後の方が圧倒的に多い。

7. オオムラサキ

生息場所は浦和市秋ヶ瀬に近い所である。武藏野西線の線路ぎわの雑木林にいるが個体数は少ない。冬期の幼虫調査においても1月中探してわずか8頭であった。成虫の採集記録は次の通り。

1♂ 20-VI-1977, 1♀ 3-VII-1979.

8. コミスジ

慶應高校(志木市)では見かけることが多い(食樹はニセアカシア)が、当地では少い蝶である。採集例は次の通り。

1♀ 15-VII-1976, 1♀・1♂ 1-VI-1977, 1♀ 6-X-1978(すべて新鮮).

9. キタテハ

1978年まではかなり見かけたが、道路整備や住宅建設でカナムグラの群落が少なくなり目撃する機会も減少した。採集例は次の通り

4♀・2♂ 10-VII-1976, 2♀ 20-X-1977, 3♂ 3-VII-1978.

10. ミスジチョウ

次の1例のみである。

1♂ 12-VII-1977(汚損個体).

ジャノメチョウ科

している。現在は越冬場所を調査中である。

11. ヒカゲチョウ

少ない蝶で、採集例は次の通り。

1♀ 20-VII-1976, 1♂ 10-IX-78.

12. サトキマダラヒカゲ

最近になって少なくなった蝶である。越冬中のサナギを雜木林の林縁のコナラの朽ち木の下で♂頭採集している。

13. ヒメジャノメ

これも最近少なくなった蝶である。年3化と思われ、5月上旬～6月上旬、7月中旬～8月、9月中旬にみられる。

14. ヒメウラナミジャノメ

この蝶は前2種とは逆に増えている様に思える。最近になって目撃・採集例が多くなっている。年3化で5月上旬～6月、7月上旬～8月上旬、9月中旬にみられる。

食草として確認したのはヒメジョン、ススキ、メヒシバである。吸蜜植物はヒメジョン、ネギなどで、ジャノメチョウ科の中では一番吸蜜が好きのようである。また低く飛ぶので、慣れればすぐ見わけがつく。

セセリチョウ科

15. ギンイチモンジセセリ

この蝶も最近少なくなった。1976年から3年間、自転車を使って志木・朝霞・新座で幼虫や成虫を採集して分布を調べた。浦和市田島、武藏野西線新座駅、志木第2中学校の3点を囲んだ所に生息しており、ふしぎなことにこれはミヤマチャバネセセリの生息域と一致する。朝霞では武藏野西線の新座～西浦和の線路沿いに生息している。春型に比べて夏型はかなり少ない。

16. ミヤマチャバネセセリ

前種と生息域は同じであるが、よく見ると住みわけている。ススキ群落においては縁に多く、前種は均一に生息するといった感じである。ガソリンスタンドのわきのススキで幼虫がみつかることもある。

多産地として確認した所は志木第二中学校裏、志木市下宗岡、朝霞市内間木、志木第一中学校裏で、荒川などの川沿いにあるススキ群落に多い。また、朝霞よりも志木周辺の秋ヶ瀬付近、荒川・新河岸川流域に多産する。年2化で5月下旬～6月上旬、7月上旬～8月に出現する。

吸蜜植物はヒメジョン、アザミ類を確認

17. オオチャバネセセリ

イチモンジセセリと共に普通にみられるセセリチョウである。年3化で、5月下旬～6月中旬、7月中旬～8月、そして9月であるが、年によっては2化になる、また、第1化と第2化とがはっきり区別できない年もある。

18. コチャバネセセリ

少ない蝶だが毎年発生している。採集例は次の通り。

1♀ 5-V-1976, 1♀・1♂ 24-VI-1977, 1♂ 14-V-1978, 1♀ 1-VII-1979. (つづく)

埼玉県児玉郡

上里町鶯の蝶

松本和馬

(1) 神流川河岸 (群馬・埼玉県境の埼玉側)

1979年8月28日、ミヤマシジミとシルビアシジミを探したが見つからなかった。食草も未発見である。

1. ギンイチモンジセセリ

6♂・2♀ ○ (採集, 他にも目撃多数)

2. ミヤマチャバネセセリ

2 exs ○ (採), 1 ex ○ (捕獲),

1 ex (目撃).

3. ツバメシジミ

3♂ (目撃).

(2) 鶯の村落内, 1979年8月29日.

1. アサマイチモンジ

1♂ ○ (採).

ギンイチモンジセセリが8月末に多数見られ、新鮮であったことは、これを県南におけると同様第3化と見なすべきではないだろうか。これが第3化であるなら、県北も含めて(同地は埼玉県のほぼ最北端に位置する。埼玉県の平野部では年3化ということができよう。同様のごとが同時に得られたミヤマチャバネセセリについてもいえる。この2種は新産地と思う。

アサマイチモンジは1960年代から上記地内で時々採集しているが、ここではイチモンジチョウを見たことがない。○は新鮮、◎は汚損度中位を表す。

奄美大島・石垣島産と正丸峠産の カラスアゲハ 春型 雄 の比較

山崎 正則

前号の「奄美大島の蝶類」を調査した両日は共に天候は悪くなかったものの風が強く、膚寒く感じられ、良い採集日和とは言えず、また時期が少し早かったためか本命としていたアカボシゴマダラ、イワカワシジミ等は全く見ることが出来ず、この島においては普通種ばかりの採集結果になってしまった様である。

さて、変異であるが、奄美亞種としてはナガサキアゲハ、ジャコウアゲハを始め何種類か知られているが、今回は比較個体が少なかった事や破損がいちじるしいため他の種類は調べられず、カラスアゲハ春型♂のみについて私なりに比較してみた。これについても下記の様に比較個体が少ないもので、本来の変異とは違う点もあるかもしれないが、一つの資料として提供してみる。

カラスアゲハ 春型 ♂ の比較個体
1) 2) 28-V 正丸峠産 2♂, 3) 3-V 石垣島産 1♂, 4) 14-N 奄美大島 1♂.

表面（前シ）……正丸峠産では緑リンが全体的に多数分布し、緑色味が強いのにに対し、石垣島産では緑リンが正丸峠産と比べかなり少なくなり緑色味が弱く黒く感じられる。奄美大島産は他産と比べ緑リンがやや青味を帯びている。

♂の性斑では石垣島産が多産に比べ著しく長く、特に♂脈、♀脈の性斑は外縁に接してはいないもののかなり近くまで伸びている。

外縁の黒帯は正丸峠産では前羽のシ端にまで達しているのに対し、奄美大島産では♂脈までで、さらに石垣島産は黒帯に緑リンが混ざり細く不明りょうとなっている。

表面（後シ）……正丸峠産、奄美大島産共に青リン・緑リンが弦月紋にかぶさることはないが、石垣島産では他産に比べ青リン・緑リン共に亞外縁の弦月紋にかぶさり外縁に達している。そのためか石垣島産の弦月紋は 1b 室に明りょうな赤色弦月紋があるだけで、亞外縁の青色弦月紋は非常

に不明りょうである。また石垣島産の個体では青リン（紫に近い青）が♂脈～♂脈、緑リンが♂脈～ノ脈までと完全に♂脈で分かれしており、中室も♂脈の延長線をベースとして見事に分かれている。

正丸峠産と奄美大島産を比べると、正丸峠産では個体差があるものの♂室、ノ室が青リン、♂室が青リン・緑リンの混合、♂室～ノ室までが緑リンであるのに対し、奄美大島産では中室基部から内縁、ノ室、♂室にかけて生えている毛の部分が緑リンで、♂室～♂室までが青リンである。また、亞外縁部の内側に位置する黒リン（黒帯）は正丸峠産に比べると広くなっている。

後シ亞外縁の弦月紋は正丸峠産では青リン・緑リン混合の紋がノ室まで、赤色弦月紋は♂室まで見られるが、奄美大島産では弦月紋に緑リンは少なく青リン（紫に近い）が主で正丸峠産同様ノ室まで、赤色弦月紋は♂室まで見られる。

奄美大島産春型♂の表面後シだけを全体的に見れば赤色弦月紋が大きく鮮明なためか、秩父産ミヤマカラスアゲハの夏型♀に近い感じがする。

裏面（前シ）……亞外縁の白帯は正丸峠産では明りょうにノ室～♂室まで見られ♂室でシ脈に沿って基部の方まで大きく入り込んでいるのに対し、奄美大島産は正丸峠産に比べ白帯の幅がより不明りょうとなり♂室も正丸峠産ほど入り込んでいない、石垣島産ではノ室が極めて細く前縁に近くなる程幅が広くなりより不明りょうになる。

前シ基部に点在する黄色リンは正丸峠産、石垣島産では基部～中室にかけて明りょうに見られるのに対し、奄美大島産は黄色リンが完全に消失している。

裏面（後シ）……赤色弦月紋は正丸峠産と比べ奄美大島産、石垣島産共に赤味が強く明りょうで、全部の赤色弦月紋

の真中には眉型に紫色斑が入っている。さらに赤色弦月紋の形も正丸峰産、奄美大島産では共に長方形～半月形であるのに対し、石垣島産では三日月形～波形である。

奄美大島産の♀については、比較個体が

少ないため詳しく比較できないのであるが赤色弦月紋の発達が極めて良い様で、かなり見事に赤味が強く大きい様に思われる。

今後も他の種類について比較個体が入手できた時に調べてみたいと思う。

埼玉県下におけるアリヅカコオロギの 採集例および生態的断片

寺山 守

アリヅカコオロギ (*Myrmecophila sapporensis* MATSUMURA) は、成虫においても体長3mm程度の極小、無シのコオロギで、主にアリの巣内から採集されている。

埼玉県動物誌(1978)の直シ類の部において、県内での生息を十分予測してはいるが、採集例が見当たらない。筆者の手元に埼玉県産のアリヅカコオロギの成虫／♀個体、幼虫♂／個体の合計75個体があるので、それらの採集記録をここに報告しておきたい。さらに生態の一部に關しても触れてみたい。

(1) 採集記録

成虫(♀)

大里郡川本村	10-X-1973.
大里郡川本村	19-V-1974, 2 exs.
大里郡	3-II-1975.
大里郡川本村	29-V-1976.
大里郡川本村	16-VII-1976.

成虫(♂)

大里郡川本村	13-X-1972.
大里郡川本村	20-V-1974.
大里郡川本村	19-III-1975.
東松山市	1-II-1975, 2 exs.
東松山市	18-III-1975.
Saitama P.	4-IV-1975.
東松山市	1-X-1976.

幼虫

川越市	?-X-1972.
大里郡川本村	24-XI-1973.
大里郡	18-XI-1973, 2 exs.
大里郡川本村	19-XI-1973.
東松山市	20-X-1974.
大里郡川本村	12-IV-1974, 2 exs.
大里郡川本村	22-VI-1974.
大里郡川本村	26-V-1974.
大里郡寄居町	2-N-1974.

幼虫

大里郡寄居町	29-VI-1974.
大里郡川本村	29-X-1974.
大里郡川本村	13-IV-1974, 3 exs.
大里郡川本村	10-X-1974.
大里郡川本村	12-IV-1974, 2 exs.
大里郡川本村	15-XI-1974.
大里郡川本村	26-V-1974.
大里郡川本村	29-X-1974.
大里郡川本村	20-XI-1974.
大里郡川本村	19-III-1974.
大里郡川本村	19-XI-1974.
大里郡川本村	10-X-1974.
大里郡	3-III-1975.
大里郡川本村	30-III-1975, 6 exs.
大里郡寄居町	29-VI-1975.
大里郡川本村	22-IV-1975.
能谷市	20-VII-1975.
東松山市	10-II-1975.
東松山市	16-IV-1975.
大里郡川本村	30-III-1975, 3 exs.
大里郡川本村	20-VII-1975.
秩父市(武甲山)	24-X-1975, 2 exs.
大里郡川本村	11-XI-1975.
大里郡寄居町	29-IV-1976.

大里郡寄居町 16-I-1976. 大里郡川本村 20-N-1976, 2 exs.
 大里郡寄居町 14-V-1976, 4 exs. 大里郡川本村 14-V-1976, 4 exs.
 大里郡川本村 20-N-1976, 2 exs. 富士見市 24-X-1976.
 大里郡川本村 16-I-1976.

(2) アリの巣内における生息空間に関して

埼玉県下において、巣内よりアリヅカコオロギが採集されたアリ類は、下表に示すとおりで、2亜科6属8種が確認された。

巣内にてアリヅカコオロギが採集されたアリ類	Stage	
1. <i>Camponotus japonicus</i> MAYR		imago
2. <i>Formica japonica</i> MOTSCHULSKY	larva	imago
3. <i>Formica</i> sp.		imago
4. <i>Tetramorium caespitum</i> WHEELER	larva	
5. <i>Lasius niger</i> LINNE	larva	imago
6. <i>Lasius sakagamii</i> YAMAUCHI et HAYASHIDA	larva	
7. <i>Pristomyrmex pungens</i> MAYR	larva	
8. <i>Pheidole fervida</i> SMITH	larva	

アリの巣内で生活するアリヅカコオロギは、当然、アリの巣の状況で空間的制約を受けるわけであり、たとえばコツノアリのように体長が1mm以下のアリの巣に生息することは困難であろう。

共生が確認されているアリの体長（働きアリ）は、小型の方から、アズマオオズカアリ2.5mm、トビイロシワアリ3mm、アミメアリ3~3.5mm程度であるが、ここまでアリヅカコオロギの幼虫のみが採集されている。特にトビイロシワアリの巣において、筆者は50の頭近くのアリヅカコオロギを探集しているが、成虫は未だ一頭も発見できなかった。そして、トビイロシワアリの巣の坑道の大きさから考えて、アリヅカコオロギが生息するには小さすぎるのではないかと考へてみた。とすれば、アリヅカコオロギはその成長に伴って、小型のアリの巣から大型のアリの巣への移動をおこなうのであろうか。少数例ではあるが、地表を単独で行動中のアリヅカコオロギを探集しているが、それらは、あるいはこのような巣から巣への移動をおこなっている最中の個体ではなかろうかとも考へてみた。

以上の事柄が、本当にアリの巣内の空間的制約によるものかどうかすら定かではないが、いずれにせよ、アリヅカコオロギが非常に興味深い生活環を持っている事をうかがわせているようを感じる、今後の調査を待ちたい。

(3) 周年経過に関して

卵、幼虫、成虫の各ステージがまったくバラバラで、季節に無関係な動物（昆虫）は少ないようで、直シ類ではカマドウマやマダラカマドウマ等がそれに該当する。アリヅカコオロギにおいても、同様のことが知られており、次表のとおり、幼虫と成虫の採集時期が一致しており、つまり、つまり、一年中幼虫と成虫が見出せることになる。越冬においても同様であることを認めた。

Month Stage	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC
LARVA	*	*	*	***	**	*	*		**	**	**	*
IMAGO		*	*	*	**		*	*	*	*		

参考文献

- 1) 山崎 柄根 (1978) 埼玉の直シ類 埼玉県動物誌, : 383-398.
- 2) 久保田政雄・近藤 正樹・今井 弘民 (1966) クロヤマアリの共生動物の巣内垂直分布
蟻, (3) : 4.
- 3) 山下 秋厚 (1975) めずらしいコオロギ二種 SATSUMA, 24 (7) : 90.
- 4) ——— (1977) 鹿児島県のコオロギ (1) Ibid., 26 (75) : 119-123.
- 5) 井上 尚武 (1979) 茨城県のアリ類分布資料 (1) 虫の国, 13 (1), (51) : 1-5.

××××××

種子島の甲虫

市川和夫

1979年7月29日から8月1日まで、鹿児島県西之表市(種子島)にある種子島測候所の水銀燈などにおいて、主として蛾類の採集を行ったが、その際に若干の甲虫類も得たので、斎藤良夫先生に見ていただき種名その他について教えて頂いた。標本は筆者の手元にあるので、分布資料になると考えここに記録しておくことにした。斎藤良夫および採集を共に行った直井正男の両氏に深謝する。*はおそらく種子島での新記録種と思われるもの。

- | | |
|---|--------|
| 1 ハンミョウ Cicindela japonica THUNBERG | ハンミョウ科 |
| 2 exs. 屋久島産のものは肩紋の後紋が縮小し時に消失するが、この個体も同様の
紋であり、ab. yakushimana に近いようである。 | |
| 2 *シマゲンゴロウ Hydaticus bowringi CLARK 1 ex. | ゲンゴロウ科 |
| 3 タマムシ Chrysochroa fulgidissima SCHONHERR 多数(採1) | タマムシ科 |
| 4 *ノコキリクワガタ Prosopocoilus inclinatus MOTSCHULSKY クワガタムシ科
♂ 1, 北・本・四・九:朝鮮のものと同じ。 | |
| 5 *コクワガタ Macrodercas rectus MOTSCHULSKY 1 ♂・2 ♀ | — 科 |
| 6 *サツマコフキコガネ Melolontha satsumaensis NIIJIMA et KLNOSHITA
3 exs. 九州・屋久島に分布している。 | コガネムシ科 |
| 7 アオドウガネ Anomala albopilosa HOPE きわめて多数(採21)
本(西部)・四・九・種子島・屋久島・対島に産する亞種 subsp. albopilosa H. | — 科 |
| 8 ドウガネブイブイ Anomala cuprea HOPE 6 exs. | — 科 |
| 9 *カブトムシ Allomyrina dichotoma LINNE 3 ♂, 3 ♀ | — 科 |
| 屋久島産に極めて小型の個体がいることが知られているが、種子島産の個体も同様
の特徴を示すことがわかった。採集個体の体長×体幅(mm)は次のとおりである。 | |

個体	体長	体幅
♂ 1	30	18
♂ 2	34	18
♂ 3	41	23

個体	体長	体幅
♀ 1	34	20
♀ 2	36	20
♀ 3	42	24

体長 30 mm を線で示すと右の長さである。

- | | |
|--|-----|
| 10 *オオカンショコガネ Apogonia major WATERHOUSE 1 ex | — 科 |
| 既知産地 九州. | |

埼玉県の蝶に関する覚え書き (2)

内山文庫蔵の「日本の蝶」のうち、埼玉県産の蝶を記載する。確認者：確井昭徳

(5) 図鑑の中の埼玉県産の蝶
1970年代に出版された4冊の蝶の図鑑に登場した埼玉県産の蝶をリスト・アップしてみた。

A. 原色日本昆虫生態図鑑(Ⅲ) チョウ編 1972年 保育社

- ・ホシチャバネセセリ (PLATE 9) 飯能市天覧山 24-X-1967 (若令幼虫の巣の生態写真)
- ・キアゲハ (PLATE 48) 浦和市 5-V-1970 (訪花の生態写真)

B. 図説 日本の蝶 1972年 ニュー・サイエンス社

- ・モンシロチョウ (p. 20) 浦和市 30-V-1962, 夏型 1♂ 1♀.
- ・ミドリシジミ (p. 53, 54) 浦和市 15-V-1958, 2♂ 2♀.
- ・カラスシジミ (p. 70) 名郷 25-V-1955, 1♀.
- ・キマダラセセリ (p. 21?) 浦和市 12-VI-1961, 2♀.

C. 日本産蝶類大図鑑 1975年 講談社

- ・ギンイチモンジセセリ (p. 4) 和光市大和町 29-N-1973, 1♂ 1♀.
- ・ホシチャバネセセリ (p. 5) 飯能市天覧山 26-VI-1966, 1♀. 同所 14-VI-1959, 1♂., 飯能市多摩山ろく 3-VII-1954, 1♂., 飯能市天覧山 12-VII-1958, 1♂., 同所 20-VII-1967, 1♀.
- ・ミヤマチャバネセセリ (p. 6) 和光市大和町 29-N-1973, 1♂ 1♀.
- ・キマダラセセリ (p. 9) 浦和市 25-V-1962, 2♂ 1♀., 飯能市天覧山 1-X-1972, 1♀.
- ・オスジアゲハ (p. 22) 川口市鏡林 15-VII-1941, 夏型 1♂.
- ・モンシロチョウ (p. 37) 浦和市 30-V-1962, 夏型 2♂ 2♀.
- ・モンキチョウ (p. 44) 両神山 30-N-1939, 異常型 1♀.
- ・ミズイロオナガシジミ (p. 51) 新座市平林寺 30-VI-1962, 異常型 1♀., 浦和市 15-VI-1958, 異常型 1♀., 同所 15-VI-1958, 異常型 1♂.
- ・アカシジミ (p. 52) 飯能市 1-V-1968, 1♂.
- ・ハヤシミドリシジミ (p. 56) 堂平山 4-VII-1963, 1♂., 同所 4-VII-1964, 1♀., 同所 4-VII-1971, 1♀.
- ・ミドリシジミ (p. 58, 59) 浦和市土合道場 15-VII-1958, 3♂ 2♀ 異常型 1♀.
- ・キマダラルリツバメ (p. 65) 名郷 5-VII-1954, 1♂.
- ・ヤマトシジミ (p. 81) 川口市 3-X-1967, 異常型 1♂.
- ・アサマシジミ (p. 89) 秩父市 2-VI-1971, 3♂., 同所 15-VII-1970, 雌雄型 1 ex. 同所 16-VI-1971, 1♂.
- ・アサマイチモンジ (p. 105) 飯能市天覧山 1-X-1972, 1♀.
- ・コミスジ (p. 107) 飯能市天覧山 14-VII-1966, 異常型 1♀ (別のプレートに、この個体の裏面の写真が載っているが、その解説には 大宮市 14-VII-1966, 異常型 1♂ となっており、どちらが正しいデータなのか判断できない。).
- ・ヒメアカタテハ (p. 113, 120) 朝市 21-X-1973, 異常型 1♀.
- ・スミナガシ (p. 116) 伊豆岳 25-V-1970, 春型 1♂.
- ・オオムラサキ (p. 119) 所沢市 14-VII-1969, 1♀., 川口市 1-VI-1933, 異常型 1♂.
- ・ナミヒカゲ (p. 136) 飯能市天覧山 1-X-1972, 1♂.

D. 原色日本蝶類図鑑 1976年 保育社

- ・ギンイチモンジセセリ (PLATE 69) 浦和市 夏型 1♂ 1♀.

(6) 「 Butterflies from China, Japan, and Corea 」

J. H. Leech 1892-1894.

この本の複製本をしばらくの間、手もとに置いておく機会があったので、この中に埼玉県内の採集記録があるか調べてみた。

主に日本産の蝶／々ク種についての記述を読んでみたが、「Yokohama」が時々出てくる程度で、関東地方の（採集）地名は少ない。結局、埼玉県の地名としては、p. 148-150の Euripus charonda (オオムラサキ) の記述の中で、Pryer (1888) の引用として「Chichibu」(秩父) の名が一度だけ現われるにすぎなかった。なお、貴重な本を長い間貸して下さった松本和馬氏にお礼申し上げる。

短 報

伊豆ヶ岳で彩集した
カミキリについて

矢島嘉和

トラフシジミの
大宮での記録

山崎正則

1980年6月24日、スミナガシの幼虫を調べに伊豆岳に登ったが、カミキリムシも採集したので報告する。

1. ルリハナカミキリ 1♀ 正丸峰近くのクワの葉上に静止していた。

2. クロトラカミキリ 1♀

伊豆岳頂上近くのカシワの切り株に飛来。

3. ニセシラホシカミキリ 1♀ 1♂

伊豆岳頂上近くで、サワフタギらしき葉が食べられているのを発見、交尾中のものを採集。

他にクロトラカミキリと同じ場所で、クロナガタマムシを多数発見している。

××××××

図鑑の紹介

世界のチョウ

昨年（昭和54年）、学習研究社から発行された「学研の図鑑」シリーズの一つで、大人から小供にまで楽しく役立つ本です。

黒沢良彦博士の監修で、本会にも所属されている大島進一氏が構成・執筆した立派な図鑑です。さあ、昆虫が大好きな皆さんこの本を手にして、楽しい蝶の世界旅行に出発しましょう。

144ページ 大型本ケース付 ₩ 1280

1979年1月20日 初版発行, KK 学習研究社

(筆責 市川)

以前の採集例であるが、自宅の庭で採集したり目撃したトラフシジミの記録である。斎藤良夫 (1970) の「大宮市の蝶」に記録があるものの、近年見られなくなってしまった蝶である。

1) 大宮市島町 18-N-1976, 1 ex (目)

2) 大宮市島町 1-V-1978, 1♀ (採)

ウラキンシジミを
破風山（吉田町）で採集

市川和夫

ウラキンシジミの羽化したばかりの個体を、同行した南部氏が採集し筆者に下さった。本県では採集例の少い蝶の一つなので、報告し記録しておく。

秩父郡吉田町 賴母沢の上流で札立峰近く（海拔約 600 m） 15-VI-1980, 1♂
採集者 南部敏明。